

今、聞きたい「？」→「！」

健全育成Q&A

今回は三鷹の森学園の出口を支える三中主幹教諭の森先生にインタビューしました。広報部部会委員の高山小：目黒、三中・五小：猪越が担当です。



Q1. 健全育成として三鷹の森学園ではどのような取り組みが行われているのですか？

三鷹の森としてメインで行っている活動が**あいさつ運動**です。今年はCS委員会からのぼり旗もいただきました。このあいさつ運動を土台として、中学校ではプロジェクトチームを立ち上げ、生徒会と部活動の活性化に力を入れています。

授業規律の面では、**チャイム着席**の徹底に取り組んでいます。授業を落ち着いてスタートさせるため、全学年でがんばっているところです。

今年初めて**生活委員会**ができて、このチャイム着席の呼びかけやチェックをしています。

小・小・中の三校で、「**授業規律**」と「**校内の生活**」、「**校外の生活**」の三本柱を**9年間の系統性**を持って生活指導していこうと確認し合いました。

Q2. 生活指導の面で小学校と中学校の違いはどんなところですか？

中学生は思春期に入り、心の部分が大きく変わります。何でも素直にはいきません。ですから、小学校の時に覚えたルールやマナーを自ら**実践**し、場面に応じて**判断**し、**言動がとれる**ようになるというのが一番重要な部分になってきます。今年度、生活委員会を立ち上げたのも大きなところですが、自分たちの生活について自身で考え、規律を守り、

守らせるということは、**自分たちの行動に責任を持つ**ということにつながります。

子供たちに投げかけて自分たちでやらせてみる、うまくいかなかったりかかるとかやってみるということが多いですね。そういう意味では、今年の合唱コンクールの取り組みはよくできていたのではと思います。時間のない中、自分たちだけで作り上げたところは、中学生の底力だなあと感じましたね。

Q3. 中1ギャップという言葉に耳にしますが、不登校と関係がありますか？

中学校に入って急に不登校になったということは少なく、むしろ小学校の時に休みがちだった子が、中学校進学時には元気に登校できるようになることも多いと感じています。不登校はその後2・3年生で増えますが、健全育成的には、この小学校から中学校にあがる時は、子供自身が**壁を乗り越える大事な時期**だと思います。子供は乗り越える力を絶対持っていると思うんですね。そういう意味では「壁」は必要だと思います。

Q4. 健全育成の取り組みの成果を上げるために家庭でできることは何ですか？

ダメなものはダメと言って下さい。それも親が本気で思ってください。

少しでもこれくらいはと思っていたら、子供は**親の曖昧さ**を動物的な感覚で読みとります。ここは親として、自分も含めがんばってほしいところですね。(森先生には大学生の息子さんがいらっしゃいます。)

そして**権利を主張するなら義務を果たしなさい**という世の中の最低限のルールを教えてあげなくてはいけないと思います。

Q5. 反抗期の子供の対応についてアドバイスを下さい。

反抗する時期はないよりあったほうが逆に安心ですよ。それに子供はちゃんと戻ってくるから。

— 後になって思えばですよ？

そう。戦っている時は必死！(笑)。でも、**親の責任として戦ってあげない**とね。

・・・インタビューを終えて・・・

森先生にお話を伺って、三中学生の「自分たちで責任を持ってやり遂げる力」(例えば今年の合唱コンクール)は小学校での「段取りを整えてもらい行動する」経験の積み重ねが土台となり、底力として発揮されるのだということがわかりました。

また、親としては「ダメなものはダメと本気で思い、本気で言う」ことを実行していこうと思います。